

尿沈渣に出現する尿路上皮細胞集塊の検討

○佐藤里香 田中雅美 吉岡将之 関口哲成
(上尾中央医科グループ 津田沼中央総合病院)

【はじめに】尿沈渣の尿路上皮細胞集塊は、様々な要因で出現する。今回我々は、尿沈渣に見られた尿路上皮細胞集塊を比較検討したので報告する。

【方法】27 検体 27 症例 2011 年 8 月から 2014 年 2 月までの 2 年 6 ヶ月間に尿沈渣に出現した尿路上皮細胞集塊形態をカテーテル尿、炎症（結石・悪性を伴わない）結石・石灰化（悪性を伴わない）、尿路上皮癌のカテゴリーに分けて比較検討した。

【結果】カテーテル尿では均一な細胞の集塊が多く見られた。炎症では、核の大小不同はあるが核が濃染性あるいは濃縮し、変性を伴った細胞集塊が多く見られた。結石・石灰化では、核の大小不同や軽度の核不整はあるが、細胞の結合性は強く、細胞集塊の辺縁は平滑であった。尿路上皮癌は 2 症例あり、2 例とも高異型度尿路上皮癌であった。1 例は扁平上皮への分化を伴う尿路上皮癌、もう 1 例は尿路上皮内癌であった。それらの異型尿路上皮細胞集塊は良性の尿路上皮細胞集塊と違った形態を示していた。

【考察】尿沈渣で出現する尿路上皮細胞集塊は、カテーテル尿と良性疾患で若干の違いが見られた。また、高異型度の尿路上皮癌は、カテーテル尿や良性疾患と比較して大きな差が見られた。

【結論】尿沈渣で見られる尿路上皮細胞集塊は集塊を構成している細胞形態や細胞配列、集塊の辺縁などをよく観察することで、カテーテル尿採取による尿路上皮細胞集塊、良性の尿路上皮細胞集塊、悪性尿路上皮細胞集塊に分けることが出来る。つまり、尿沈渣で良性の尿路上皮細胞集塊と違った異常な形態を認識できれば、高異型度の細胞集塊を鑑別することは可能と考える。

連絡先 047-477-5766